

2012年8月24日

関西国際空港における継続降下到着方式を導入

- ・ 消費燃料の節減とCO₂削減等が可能
- ・ 早朝に関西国際空港に到着する便で実施

Peach Aviation 株式会社(以下:Peach、代表取締役 CEO:井上 慎一、本社:大阪府泉佐野市)は、本日より、関西国際空港の深夜早朝時間帯において継続降下到着方式(Continuous Decent Arrival、以下 CDA)の試行運用を開始すると発表しました。

CDA方式による着陸を行うのは、早朝に到着する香港発大阪(関西)行きの全てのPeach便で、24日に関西国際空港に到着する当該便より導入し積極的に当降下方式を実施していきます。

CDA方式とは、巡航高度から降下を開始後、着陸までの降下角度を燃料効率上最適な状態で継続的に降下し着陸することにより、降下途中に通常発生する水平飛行に近い飛行形態を排除することを目的とした降下着陸方式です。CDA方式には消費燃料の節減ならびにCO₂の削減の効果があり、当社便(エアバスA320型機)の1回の着陸で300~800ポンドの消費燃料の削減が可能となります。

Peachは「アジアの空をもっと近く、面白くする」をキャッチフレーズに、日本とアジアの新たな懸け橋としてネットワークを拡大し、アジア地域における人々や文化の交流の促進を目指すだけでなく、最先端の技術を導入することで、安全の確保はもちろんのこと365日低運賃を実現すべく、コストの削減および環境の保全に取り組んでまいります。

Peach Aviation 株式会社について

Peach は、関西国際空港を拠点とする日本で初めての本格的な LCC として、2012年3月に大阪(関西)ー札幌(新千歳)、福岡、長崎線、4月には大阪(関西)ー鹿児島線を開設しました。5月には初の国際線となる大阪(関西)ーソウル(仁川)線を、7月1日には香港線を開設し、10月16日には台北(桃園)線を開設します。また、2012年10月18日には、大阪(関西)ー沖縄(那覇)線を開設します。Peach は航空における新たな価値や選択肢を生み出し、成長著しいアジア市場の需要を開拓することで、アジアと日本の新たな懸け橋となることをビジョンとし、日本各地および日本とアジアを結ぶ新たな航空ネットワークを創造します。安全を大前提として、これまでの航空会社とは異なる仕組みから安定的な低コスト体制を実現し、365日低運賃を提供することをミッションとしています。